

# 平成28年度第三者評価・結果報告書概要

実施期間:平成28年9月～平成29年2月

評価機関:NPO法人 関東シニアライフアドバイザー協会

## 特に良いと思われる点

## 更なる改善が望まれる点

### ● 世代間の交流が自然に育まれています

乳幼児から高齢者までの幅広い年齢層を対象とした当施設は、それぞれの事業に加えて、世代間での交流がプログラムの積み重ねによって大きな成果をあげています。

学童クラブを過去に利用していた中高生が、児童館や高齢者に対しボランティアを実施することで、かつての利用者が担い手となる事例も多く見られています。また、事業運営の担い手として、周辺地域、関連機関の人々や市民ボランティアが自然に生まれ、交流プラザとしての役目が果たされています。

### ● わかりやすい、充実した広報誌が発行されています

サービス対象となる乳幼児と家族、学童、中高生、高齢者といった幅広い年齢層に配慮して、広報誌「あいらんばん」の発行にあたっては、各年代層により読みやすく見やすいように様々な工夫がなされています。また、学童クラブ向けに、写真を多く取り入れたお知らせや報告・記録はわかりやすい内容となっています。

### ● 利用者の子ども時代を系統的にサポートする試みがなされています

昨年度の中高生の利用者数の低下を受けて、今年度は中高生の行事を増やし、中高生利用者の増加を図っています。これは、現在の小学校の全校児童数の増加を受けて将来の中高生増加を見越した、中高生の居場所づくりに結びついていると言えます。またこうした中高生が将来の地域活動の担い手となるようスタッフが導いています。乳幼児期から利用してきた子どもたちが、中高生になるまで安心して利用でき、さらにその後地域の担い手になる、といった地域の現状に沿った形における「子どもの成長を見守る拠点」となっています。

### ● 手順書類の整理が望まれます

様々な手順書が作られていますが、内容に統一性を欠くものが見られます。例えばアートルームの手順書は複数ありますが、一つには自由に使える道具として「エンピツ・クレヨン・のり」が挙げられており、別の手順書では「エンピツ・ホチキス・のり」となっています。材料に関しても「折り紙は一人2枚まで」と、「一人3枚まで」とが混在しています。作成した年月日を記していないため、このような相違が生じていると思われるので、最新版のみを残し、古いものは破棄する等、手順書類の整理が望まれます。更にはマニュアル類を一つのファイルとして整備し、誰もがいつでも閲覧・活用できるようにすることが望まれます。

### ● 法律改定等に沿った事業計画の改善が望まれます

「改善の必要な点についてはその都度改善しているが、他はそれまでの年度とあまり内容的には変わらない」旨の説明を受けました。また、施設として遵守しなければならない法律は「個人情報保護法」のみの記載でした。地域の子育て世代、学齢期、高齢者といった幅広い年齢を扱う施設として、先駆的な取り組みをしている施設であるからこそ、新しく制定される法律等に敏感に対応し、その都度改定したり、事業計画の中に反映させていくことが期待されます。